

この部門の特徴

昨年新たにリハビリテーション科初の言語聴覚士を迎え、理学療法士3名、作業療法士3名、言語聴覚士1名体制となりました。リハビリはご本人、ご家族、各部署のスタッフ、地域の事業所との橋渡しの役も担います。その人らしく住み慣れた地域で豊かに暮らしていけるようサービス提供を行っています。

これからの飛躍に向けて

介護保険制度が施行され20年、同じく老健ぶんすいも20周年の時を経ました。

これまで多くのご利用者様と出会い、その方が望む生活が支援出来るよう開設当初から取り組んできました。20年という経過の中で、もちろん高齢者の方を取り巻く環境も時代と共に変わり、私たちが携わる入所、通所、訪問リハビリにおいても、求められるサービスのニーズや質が多様化してきていると感じます。

老健施設は在宅復帰施設です。しかし、実際にはご本人様やご家族様を取り巻く環境因子や人的因子により、自宅へ戻ることが出来ず入所が長期化するケースが多いのが現状です。これは通所リハビリにおいても同様で、要介護状態が悪化しないようリハビリで身体機能の向上や維持が図れたとしても、その先にある社会的な活動や参加に結び付けることが難しく、長期に利用されているケースが殆どです。

このような中で、昨今では、たとえ要介護状態になっても生きがいや役割をもち、豊かに生活出来る地域環境の実現、住民主体の通いの場や地域交流の中で互助の作用を活用し、地域の健康増進を図る、といった自立支援の流れとなってきました。

私たち自身も、当施設がある分水地域あるいは隣接する地域に目を向け、施設の中だけではなく、地域や住民の皆様との繋がりを意識し、今まで以上に地域に密着したリハビリテーション科を目指して行く必要があると感じます。実際に、昨年度から少しずつですが、在宅復帰を叶えられている方も増えてきました。リハビリスタッフは様々な職種や関係者の方とのつなぎ役を担える職種でもあります。私たちが地域交流の場へ出向くことで、入所や通所、訪問利用の方が安心して参加できる場所や役割づくりの機会が増えていくよう尽力していければと思います。

職員紹介



2002年入社
作業療法士 主任
青柳優子

開設3年目より勤務させて頂いております。利用者様の中には様々な理由でお身体が動かしづらい方も多くおられます。その中でも、お一人お一人其々の今までの生活や人生の背景を考え尊重しながら携わらせて頂き、これからの生活が少しでも張り合いのあるもの出来るように頑張ってお参りたいと思っております。



2020年入社
理学療法士
川本彩子

新潟地域の回復期病院と老健施設を経験し、今後は地域に根差して仕事がしたいと思い、4月よりお世話になっております。

スタッフの方や利用者様に温かく迎えて頂き、毎日楽しく働いています。

利用者様の生活や気持ちに寄り添ったりリハビリが行えるよう日々努めていきたいと思っています。